

第18回くまもとアートポリス推進賞

募集要項

趣旨

熊本県は、環境デザインに対する関心を高め、都市環境並びに建築文化等の向上を図るとともに、世界への文化情報発信地「熊本」を目指し、後世に残り得る文化的資産を創造するため、「くまもとアートポリス」を推進しています。

この事業の目的を達成するため、コミッショナーから国の内外より推薦を受けた設計者を参加事業主に紹介するプロジェクト事業や各種のイベント、広報事業等を行い、さらに幅広く県民の皆様の御理解を深めていただくため、平成7年から「くまもとアートポリス推進賞」の表彰を行っています。

この賞は、質の高い優れた建造物等を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と都市環境並びに建築文化等の向上を目指し、併せて豊かな地域づくりを図ることを目的としています。

表彰対象

概ね5年以内に竣工（改造、改修、修復を含む。）した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等（くまもとアートポリス参加プロジェクト及び県の施設を除く。）とします。

選考基準

本賞の選考は、建造物等の企画、設計、施工及び施設の利用について、次に示す評価のポイントをもとに総合的に評価します。

評価のポイント

- ① ②～⑥の評価ポイントがデザインに反映され、優れているもの
- ② 新しい技術的提案や工法の改善が行われているもの
- ③ ひとや環境に優れた配慮がなされているもの
- ④ 施設の活用に創意工夫がみられるもの
- ⑤ 地域づくりに寄与しているもの
- ⑥ 長いスパンのライフサイクルに配慮されているもの
- ⑦ 良好な施工が行われているもの
- ⑧ 維持・管理が良好なもの

賞

賞は「くまもとアートポリス推進賞」、「くまもとアートポリス推進賞選賞」とします。
事業主（必要に応じて管理者を含む。）、設計者及び施工者に知事が表彰状を贈ります。

応募資格

自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

選考委員（50音順）

青木 淳（青木淳建築計画事務所代表）

大野 郁子（イラストレーター、JAGDA会員）

北野 隆（熊本大学名誉教授）

高橋 晶子（武蔵野美術大学教授、ワークステーション共同主宰）

塚本 由晴（東京工業大学大学院准教授、アトリエ・ワン）

藤本 英行（熊本日日新聞社文化生活部編集局次長兼編集委員）

西嶋 公一（オフィス・ムジカ代表、熊本県文化懇話会常任世話人・熊本県文化協会常務理事）

選考経過

募集：平成24年 9月 3日（月）～10月 18日（木） 応募件数46件

書類選考：平成24年11月 1日（木）

現地審査：平成24年12月 4日（火）～5日（水） 現地審査件数11件

最終選考：平成24年12月 5日（水） 推進賞2件、推進賞選賞7件

表彰式：平成25年 3月 22日（金）

熊本県

土木部建築住宅局建築課

〒862-8570

熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

Tel:096-333-2537 Fax:096-384-9820

<http://www.pref.kumamoto.jp/site/artpolis/>



2012年度 第18回 くまもとアートポリス推進賞



くもとアートボリス推進賞

- 1 行徳眼科04
- 2 八代の家05

くもとアートボリス推進賞選賞

- 3 護岸の家06
- 4 器季家カフェ07
- 5 阿蘇くもとと空港
国内線ターミナルビル08
- 6 小規模多機能型居宅介護
ハイマートの郷09
- 7 ユウハウス10
- 8 House - Sim11
- 9 ±5° SEPPAN BOX12

マップ13・14

1		3
	4	5
2	6	7
	8	9

第18回「くまもとアートポリス推進賞」の選考を終えて

選考委員長 北野 隆



「くまもとアートポリス推進賞」は、「くまもとアートポリス」事業の一環として、質の高い優れた建造物を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と都市環境並びに建築文化等の向上・併せて豊かな地域づくりを図ることを目的に、1995年より行われている事業です。2012年度・第18回目の事業が実施されました。

今年度の「くまもとアートポリス推進賞」には、総数46点の応募がありました。応募作品の用途は専用住宅・共同住宅・事務所・病院・旅館・介護施設・劇場・学校・農機具倉庫など、構造は鉄筋コンクリート造・鉄骨造・木造など、規模も大小さまざまでした。

第1次選考の書類審査は、全作品の設計者・施工者・事業主などを隠した上で、選考委員（7名）が各自の持点10点をA（3点）・B（2点）・C（1点）の3段階に分けて評価しました。各選考委員の評価を集計しますと、作品は分散した結果になり、点数の上位から下位の全作品について討議し、各選考委員の意見も加味しながら、第2次選考の現地審査作品・11作品が選出されました。

現地審査では、設計者へ建築のコンセプトや構造など、事業主には建築の使い方などについて質疑応答がなされました。現地審査では、第1次の書類審査（設計図）では把握できない周辺環境との関係、建築空間の取扱い、素材の感触などが体験できました。なお、現地審査は、選考委員（1名）の海外出張のため6名で行いました。

最終的には「推進賞」として「行徳眼科」、「八代の家」の2作品、「推進賞選賞」として「護岸の家」、「器季家カフェ」、「阿蘇くまもと空港国内線ターミナルビル」、「小規模多機能型居宅介護ハイマートの郷」、「ユウハウス」、「House-Sim」、「±5° SEPPAN BOX」の7作品が選ばれました。

これら9作品については、選考委員の先生方が詳細な講評を述べられていますので、ご覧下さい。

また、これら9作品について、私なりにそのデザイン手法を分類すると次のようになるように思われます。

○設計者は、はっきりしたデザイン・ポリシーを持ち、そのデザインを追求した作品
「行徳眼科」・「八代の家」・「House-Sim」・
「±5° SEPPAN BOX」・「ユウハウス」

○歴史的建築にこだわりながら、地域づくりに寄与している作品
「器季家カフェ」

○建築素材を生かしながら、周囲の環境と融合させた作品
「阿蘇くまもと空港 国内線ターミナルビル」・
「護岸の家」・
「小規模多機能型居宅介護 ハイマートの郷」

今年度の「くまもとアートポリス推進賞」の応募作品46点は、去年の応募より11点も多く、また質の高い作品が多く、選考するのに苦労しました。その為、これらの作品から「推進賞」2点、「推進賞選賞」7点の9作品が選ばれました。今回の審査で感じたことは、この「くまもとアートポリス推進賞」が熊本県内の建築関係者に浸透したことです。それは現地審査での事業主・設計者・施工者との質疑応答からうかがうことができました。「くまもとアートポリス推進賞」も本年度で18回を数え、熊本らしい独特な作品も生まれてきているようです。なお、応募作品の中に国指定重要文化財の「旧万田坑施設」がありました。この作品は5年以内の竣工ではなく、すでに文化庁の調査が行われており、既存選定建築物に入るべきもので今回の選考からはずしました。



事業主 行徳眼科
設計者 有限会社グローバルアーキテクトチームガット 吉浦嘉彦
施工者 株式会社佐伯建設熊本支店
所在地 熊本市中央区内坪井町
竣工年月 2012.04
用途 診療所
構造 R C造一部S造
階数 2階
敷地面積 782.61㎡
建築面積 336.96㎡
延床面積 413.41㎡

くまもとアートポリス推進賞 行徳眼科

モダンなホテルのように受け取れる構えを持って建つ眼科医院。300年前から今まで地域医療を担ってきたこの医院は、この建築で、人々のための小さなパブリックスペースを創出している。

門型の軒下にベンチをもつ正面外観は、一枚の絵を見るような、洗練されたグラフィックとして街の景観に参加している。しかしそれだけでなく、日常ここを行き交う人々がひと息つけ、心地よくバスを待つことができる空間が提供されている。

夏の強い陽射しを遮り雨をよける軒下は、身体に寄り添いながら人を守ってくれるスペースである。長く伸びた深い軒と背中をもたせかけられる壁で作られる凹んだ形の空間、そこに水平な座面がさりげなく待っている。座面がくすることでぐっとヒューマンスケールな場になり、そこを居場所として感じられる印象が増したと思う。

待合室は大きな二層吹き抜け空間で、人の視線高さ部分は壁面とし、側面上部と背面足元レベルに開口を計画している。このことで、来院者のプライバシーを保ちながら外部を感じられる、落ち着きと明るさが両立した空間となっている。診療ゾーンも清潔感と同時に安らぎを感じられるよう、間接光を効果的に使っている。

ホテルと病院＝ホスピタルは、ともに「ホスピタリティ (hospitality)」という言葉に由来する。ホスピタリティがあらわれる場所ということが、そのままこの建築で実現されている。建替えにあたり、そのような構想をかかげられた施主と、それを巧みに実現した設計者の共同が見事だと思う。

(高橋 晶子)



撮影者：石井 紀久



事業主 片山智
設計者 村田建築設計所 村田明彦
施工者 有限会社村田工務店
所在地 八代市中北町
竣工年月 2012.06
用途 専用住宅
構造 W造
階数 2階
敷地面積 583.46㎡
建築面積 167.70㎡
延床面積 196.39㎡

くまもとアートポリス推進賞

八代の家

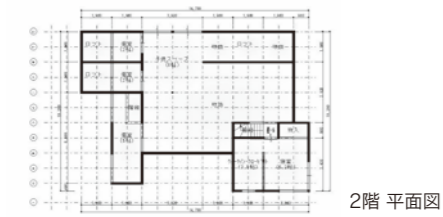
使い手の生活ぶりが見えてくるような建物に出会うことがある。建物をファインダーにして、使う人の息遣いが伝わってくるような建物が。「八代の家」は、使う人の顔の輪郭までもはっきりと見えてくるような空気、温かさを感じさせる。

夫婦と子ども4人、老夫婦の8人家族。子ども2人は寮生活のため、ふだんは6人暮らし。仲の良い家族を見て、設計者は「この家族には個室は必要ない」と考え、1階は玄関土間から居間、子どもの勉強室・寝室スペースまで仕切りを設けず、ひとつながりの空間を作り上げた。居間から勉強室、さらに寝室スペースまでは、それぞれ1メートルほどの段差を上げるようなスキップフロアになっている。壁はないが、この段差によって各スペースの性格分けをしているとも言える。寝室スペースの天井の一部は高さを抑えてあり、秘密基地、に潜る時のような子ども心をくすぐる演出もある。

現地審査で訪ねた際、勉強室には子どもたちの運動着やマンガなどが無造作に置いてあった。だれがどこにいるのか、何がどこにあるのか、一目で分かる。個室がないオープンな造りは施主が考えていた家のイメージとは違っていたらしいが、施主は「実際に暮らしたら全く気にならない」と語った。来客があっても、いつの間にか、家族皆とのだんらんが始まるのではないかとも思う。設計者が意図した「家族がつながる家」はそのようなおらかさを持っていて、家族と隣近所の人をつなげる力も持っているのではないだろうか。設計者と施主のマッチングによって、設計者は施主とその家族、暮らし方を理解し、施主は設計の狙いをよく理解していることがうかがえた。

居間の北側には、勉強室との段差を活用して地窓が設けてある。居間の南面には長さ8メートル弱の開口部があり、夏場は両方の窓を開け放せば風通しに有効だという。

(藤本 英行)



2階 平面図



1階 平面図



事業主 池田英次
設計者 志垣デザイン店 志垣孝行
施工者 宮本建設株式会社 宮本茂史
所在地 宇土市花園町
竣工年月 2011.04
用途 専用住宅
構造 W造
階数 1階
敷地面積 521.14㎡
建築面積 84.10㎡
延床面積 84.10㎡

くまもとアートポリス推進賞選賞

護岸の家

視界が開けて田畑が広がる中、さほど大きくない川沿いに、「護岸の家」は静かにたたずむ。

周りは緑に覆われていて、ここからは、他の建物が目に入らない。

オフホワイトな外観。

住居から川に下りる階段状のテラスがある。

それぞれに植栽が施されていて、1段目は床と同じレベルの木製のテラス。

2段目は芝生の絨毯のテラス、3段目はタイル張りのテラス。

3段目は、民地を市に寄付して、護岸と一体化したものだ。

これらによって、あたかも川までもが自宅の庭のような空間になった。

それは、護岸という土木と住居である建築を一体化した取り組みでもある。やわらかなベージュで統一された室内。

50センチ程の厚い壁には、高さの違う開口部が設けられ、そこには出窓や窓台、濡れ縁やベンチが施されて、花壇や川の流れを楽しめる。

室内を北側と南側に分ける分厚い壁の開口部は、テーブルや収納スペースとなり、ソファ代わりにもなる。その厚み・太さには、どっしりした安定感、安心感がある。

川には芹が植えられ、近所の子供たちが遊んだ石がころがっていた。

花壇と窓と仕切り壁が一つのリズムを生み、外の風景をも取り込んで、一つの繋がりを生みだかつたとの設計者の狙いは、ほぼ達成されている。

竣工後に主人がDIYでこしらえたウッドデッキがある。川だけでなく、対岸の雑木林の向こうに紅葉した山が眺められた。

設計者が言う「環境を楽しむことが環境を楽しくする」。

そんなライフスタイルの家となっている。

(西嶋 公一)





事業主 株式会社ファーレルオーゴ 東久美子
設計者 長野聖二・人間建築探険處
施工者 宮本建設株式会社 宮本茂史
所在地 熊本市中央区西唐人町
竣工年月 2011.11
用途 店舗
構造 W造
階数 2階
敷地面積 497.00㎡
建築面積 92.90㎡
延床面積 92.90㎡

くまもとアートポリス推進賞選賞

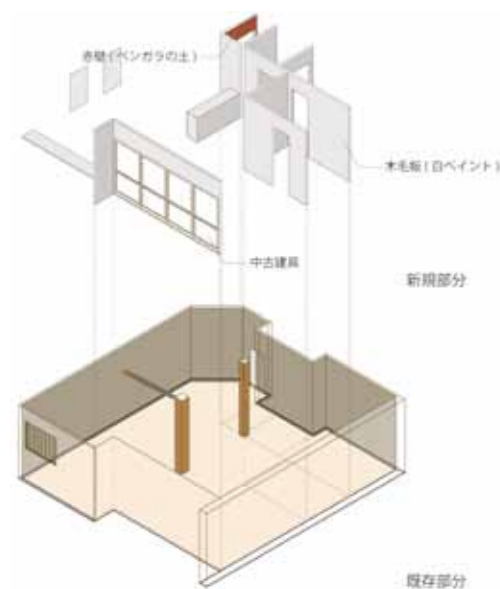
器季家カフェ

熊本市唐人町は、江戸時代から伝統的町屋が建ち並び、熊本城下町の中心街であった。ところが、明治十年の西南戦争で熊本城下町もほとんどが焼失した。ここ唐人町の町屋も明治十年後の建築年代であるが、様式その他は江戸時代からの造りを踏襲した。

私もこの西村家は十数年前に調査したことがある。その時の調査は坪井川に面した住宅であったが、道路側に面して蔵(倉庫)も建てられていた。蔵(倉庫)は大黒柱と階段以外に何もなく空き家であった。この蔵(倉庫)を店舗に改装したのが「器季家カフェ」である。

新しい「器季家カフェ」は、この蔵(倉庫)とは独立してトイレ、厨房、木毛板の白ペイント仕上げの壁を設けている。外観や内部も当時の蔵(倉庫)をよく残しての改装である。このように古い伝統的町屋を改装する時は現状の調査を行い、現状を図面で残してもらいたい。唐人町も私が調査した当時と比べ、伝統的町屋が少なくなった。江戸時代には熊本城下町として繁栄した新町区域や古町区域にはそれでもまだ古い伝統的町屋が残っている。熊本の現代都市も新しい建築だけでなく伝統的町屋を残しながら、重層的な歴史ある町になるよう期待したい。

(北野 隆)



撮影者：宮島 秀生



事業主 熊本空港ビルディング株式会社
設計者 株式会社日建設計
施工者 大成・岩永・建吉特定建設工事共同企業体、九電工・太陽電気特定建設工事共同企業体
所在地 上益城郡益城町大字小谷
竣工年月 2012.07
用途 空港ターミナルビル
構造 既存部：RC造およびS造
増築部：S造
階数 4階
敷地面積 32,343.44㎡
建築面積 11,933.86㎡
延床面積 22,397.97㎡

くまもとアートポリス推進賞選賞

阿蘇くまもと空港 国内線ターミナルビル

阿蘇くまもと空港国内線ターミナルビル南側のリニューアルである。具体的には一階ロビーと歩道部分が拡張された。このリニューアルに対して外観・構造・設備に共通するキーワードとして「大庇」が考えられている。外観的には今までの二車線が歩道部分になり軒下大空間になった。見上げると和風建築に使用される平行垂木が並び、大屋根と共に熊本城をイメージしたという。構造的には大庇の水平力を既存躯体に伝えないように「やじろべえ的構造」で増築したと言う。設備的には吹き抜けを持つ大空間を大庇によって直射日射を遮断することで熱環境を整え、自然採光による省エネと開放的な空間の形成が図られている。また、少子高齢化などを考慮しながら、シースルーエレベーターの導入・誘導サインの改修が行われ、屋根には太陽光発電パネルが設置され、LED照明の導入などいろいろな工夫がなされている。

今回のリニューアルで使用された大庇によって、空港は外観的に水平感と重厚感がありました。今後、前面の駐車場のサイン計画などが進むと政令都市もつ熊本の空の玄関口にふさわしいものになると思われる。

(北野 隆)





事業主 有限会社 ケアランド熊本 佐土原護
設計者 有限会社中川建築設計事務所 山室昌敬
施工者 株式会社 木村建設 木村賢正
所在地 熊本市東区佐土原
竣工年月 2011.06
用途 小規模多機能型居宅介護施設
構造 W造
階数 1階
敷地面積 569.02㎡
建築面積 338.10㎡
延床面積 276.63㎡

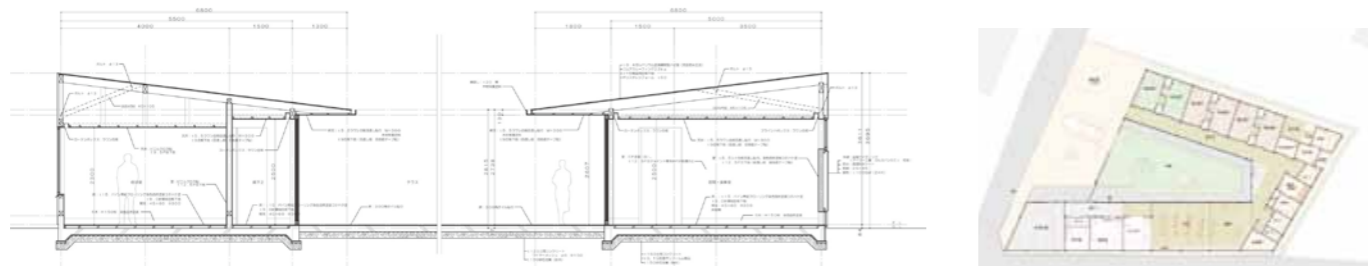
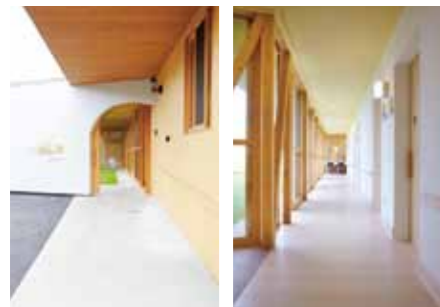
くまもとアートポリス推進賞選賞 小規模多機能型居宅介護 ハイマートの郷

小規模多機能型居宅介護施設は、自宅から離れて長期入所する施設とは異なり、日々の生活に寄り添ったものである。住宅地のなかに建ち、近辺に住む人々を対象に、デイサービスやショートステイなど利用者とその家族の日常生活に密着したサービスを提供する。規模も小さめで住宅およそ三件分の規模である。小中学校がそうであるように、このような場所は地域になくはない存在になってきている。

敷地形状に沿った台形のボリュームをつくりながら中庭を中心部に配置し、廊下を庭に沿ってコの字状に配するシンプルなプランである。道路側駐車スペースと奥の中庭との境に設けられた壁面には額縁のような開口が設けられ、互いの光景が見えることで効果的に内外を繋いでいる。中庭は内向しがちな施設に光と風をもたらし、安心して活動できる外部空間となっている。コの字型の廊下は、寝室部とデイサービス部の距離を心理的にとりながら、行き交い佇む人々の気配を中庭越しに表出させ、つかず離れずのほどよいバランスを確保している。各部のディテールは個人住宅のような繊細さとやさしさがあふれ、施設によく見られがちな「ごつさ」を感じず気持ちが良い。コストを抑えながら全体にとってもよくまとまっていると感じた。

入口横にある多目的室は近隣に開放されてミーティングやギャラリーに使われている。限定された人だけの場所ではなく地域の誰もが接点を持つことは大切と考える。そういう視点で見ると、この多目的室はもう少し室内のアクティビティや気配が外に滲み出すとより良いのではないかと感じた。

(高橋 晶子)



事業主 個人
設計者 株式会社松山建築設計室 松山将勝
施工者 株式会社岩永組 岩永一宏
所在地 熊本市東区
竣工年月 2011.11
用途 専用住宅
構造 S造一部RC造
階数 2階
敷地面積 191.56㎡
建築面積 112.62㎡
延床面積 193.58㎡

くまもとアートポリス推進賞選賞 ユウハウス

今回の推進賞の応募作品の中で、モダニズムの空間言語を最も巧みに操った、たいへんシャープな印象を与える住宅である。まわりは畑地が虫食い状に宅地化され始めた状態である。今は周囲には遮るものもなく、少し遠くまで見渡すことができるが、今後周囲は徐々に建て込んでくるという予想を設計者は立て、外から中がほとんど見えない防御的な構えを作った。防御的とはいえ、城のような重厚なものではない。白いヴォリュームがピロティによって宙高く持ち上げられ、一度地面から絶縁されたピロティの下には、その高さには届かないコンクリート打ち放しの箱が挿入されている。これにより、2階建ての真ん中に水平にスリットが走るようになった。外への視界が閉ざされた1階から2階へ階段で上がる途中、このスリットを通して周囲のパノラマが一瞬広がる。そのパノラマの一部には、小学校の校庭や、校門までの通学路が納まっているのはなかなか新鮮な視覚であり、外で遊ぶ子供達の様子を確認するのに都合がいい。2階には中庭があり、細い水平連窓では不十分な採光を補って余りある開放感をもたらしている。中庭は下に挿入されたコンクリートの箱の屋上にあたり、先に述べたスリットを介し足元が外部につながって風通しが良い。そういうモダニズムと変わらぬ言語を使いながら、今までとは違う組み合わせが試みられているところは高く評価されるべきだろう。一方で、玄関に見られた演出や、周辺環境の将来の不確実性に対するリアクションには、若い家族の住まいには不釣り合いな大きな印象を持った。なぜ今、この人たちがここに家を建てるのか?という歴史的空間的位置づけの弱さが見えるところである。

(塚本 由晴)



撮影者：石井 紀久



事業主 下田諭
設計者 伊藤憲吾建築設計事務所 伊藤憲吾
施工者 株式会社橋本建設 代表取締役 渡邊始枝
所在地 阿蘇市一の宮町
竣工年月 2012.05
用途 専用住宅
構造 W造（在来工法）
階数 2階
敷地面積 1,741.99㎡
建築面積 127.29㎡
延床面積 147.16㎡



くもとアートポリス推進賞選賞

House - Sim

現地審査の日は空が青く澄み渡りよく晴れていた。しかし12月上旬と言えど阿蘇は寒いと防寒をして向かった。樹々に囲まれた一の宮町の別荘地帯の中を通ると、シャープな外観が印象的な「House - Sim」が見えた。広い敷地の木立も自然のままに存在し暖かい日射しが建物に差し込んでいた。

雄大な自然の中、積雪などの厳しい環境とどう立ち向かい、享受するかが課題であったという。「岩」と見立てたアプローチから見える外観は、優れた板金技術が伴うものだったと聞く。

室内空間のリビングはシンプルな構成で、冬場は窓際の薪ストーブで暖をとりながら一面の窓から敷地内の自然な木立を眺め、夏場は窓を開け放すと戸外の自然と一体化できるそうで、気持ちよさそうだなあと空想する。

また、室内に入り「見事にスッキリと片付いている！」というのが第一印象だった。施主は共働きのご夫婦と小さい3人のお子さんがご家族である。生活感を感じさせない工夫は随所にあった。リビングと続きのキッチン回りは普通煩雑になりやすいが、冷蔵庫などの家電も全て収納棚の中。「使用時の機能性」と「隠す」がうまく工夫されていた。特に水回り奥に設けられた家事室は、皆好感であった。天井に取り付けられた2本の白いポールは、物干竿。専用の器具で上下させる事ができる。通常がお仕事で室内干しであったり、冬の阿蘇は戸外では凍ってしまう為に設けられた部屋。窓が広く昼間の太陽光も取り入れられ、壁面に取り付けられた多目的棚はアイロンや衣類を畳むのにも便利だし、気持ちよい空間なので読書もよさそうだ。暮らしの中から生まれたアイデアだと感じた。

1階吹き抜けの階段を登り、2階は主寝室、子供部屋など各個室である。こちらもシンプル且つ機能的に構成されている。

「暮らす」空間として考えた時、リビング吹き抜けに面した2階廊下の手すり部分が、お子さんが通る場所としては広く開きすぎていて個人的に気になった点であった。

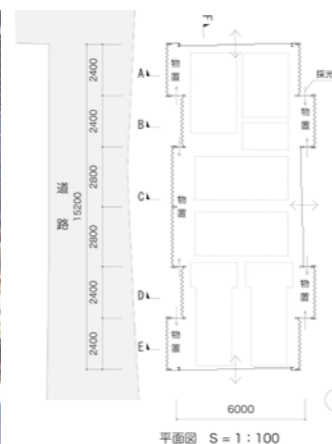
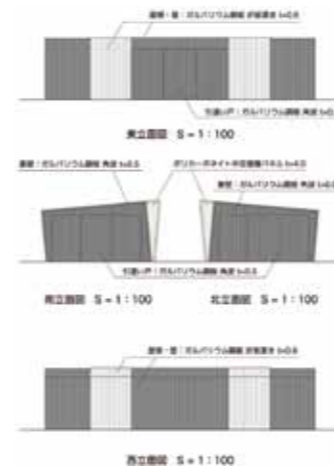
(大野 郁子)

撮影者: TechniStaff イクマサトシ



事業主 竹下宏介
設計者 eADesign 竹下正高
施工者 北田工業 北田恵造、有限会社木村鋼機 木村和弘、シンコー株式会社熊本営業所 氷室栄一、前田電工 前田伸敏

所在地 玉名市川島
竣工年月 2012.05
用途 農機具倉庫
構造 S造
階数 1階
敷地面積 893.24㎡
建築面積 97.95㎡
延床面積 94.97㎡



くもとアートポリス推進賞選賞

±5° SEPPAN BOX

トラクターなどの農耕機械をおさめるガレージというのは、農家の敷地にはかならずあるにもかかわらず、これまで誰も建築作品として作ろうとしてこなかった類の建物である。それを推進賞にふさわしい作品に仕上げた設計者の手腕にまずは拍手を送りたい。こういう作品が選考に残ること自体が熊本らしいと審査委員一同たいへん喜んだ。そして現地審査に現れた若い設計者が、大阪で設計事務所に勤務するこの農家のご子息であるとわかって一同さらに納得した。聞けば父上が最初にとった工務店の見積もりが割高に思えたので、自分に設計させて欲しいと進言し、同じ額に納まるなら、という条件を取り付けたという。このため設計者自らが現場を請負うことになっただけでなく、平面計画や建物の細部から一切の無駄が削られることになった。農耕機具が入りやすいよう、建物の3面は大きな引き戸（折板製）で開放され、機械を洗浄するためのコンクリートのテラスは隣接する田に水が流れる方向に少し傾いている。鉄の骨組に胴縁のいらぬ折板で屋根や壁を取り付けているが、折板に開口をとるのは効率が悪いので、骨組みを少しずつ傾ける（±5°）ことにより生まれる隙間を透明プラスチックで塞いで採光を確保している。平面輪郭から外に突き出すこの部分を父上がプロ並みの工具を並べる棚に利用している。モノの決め方が実に小気味良い。そしてガレージにおさめられた、見たこともないようなかたちと色をした数々の農耕機械。実に美しく整備され、次の出動を静かに待っている姿は感動的であった。

余談だが、敷地の一画には古い納屋が残されていた。新しいガレージもできたし、これを壊すか残すか悩んでいるという。そこで、設計事務所にリノベーションしてどうか勧めしてみた。北野委員長も「それはいい。ちゃんとお実測してからすること」と口添えていただいた。農家兼建築家というのは何か豊かな感じがするし、兼業人口の増加が予測される中、熊本ならあり得ない話ではないと思うのである。

(塚本 由晴)

撮影者: 笹井 マサフミ

くまもとアートポリス推進賞マップ

●: 推進賞 ○: 推進賞選賞

第1回 1995年度

- 1 小国町立西里小学校
- 2 東陽村石匠館
- 3 八代広域行政事務組合
消防本部庁舎
- 4 株式会社野田市兵衛商店
流通団地営業所
- 5 清和物産館
- 6 荒瀬ダムポートハウス
- 7 出田眼科病院
- 8 尚玄山荘

第2回 1996年度

- 9 社会福祉法人慈愛園ノーマンホーム
- 10 阿蘇白水温泉「瑠璃」
- 11 ふるさとセンターY・BOX

第3回 1997年度

- 12 久連子古代の里
- 13 養護老人ホーム八代市立保寿寮
- 14 水俣市営洗切団地
- 15 丸尾焼工房
- 16 人吉の舎II/平井邸
- 17 浮島周辺水辺公園

第4回 1998年度

- 18 老人保健施設かがみ苑
- 19 熊本県信用保証協会八代支所
- 20 HOUSE:H-M
- 21 水俣市保健センター
水俣市総合もやい直しセンター
- 22 古閑邸
- 23 聖母の丘
- 24 宮原町下宮はまどん公園

第5回 1999年度

- 25 水上村立湯山小学校
- 26 美里町総合交流ターミナル
「石段の里 佐俣の湯」

- 27 植柳新町公民館(地域学習センター)
- 28 シルワ・エッセ
- 29 50M-標の森美術館
- 30 宮崎耳鼻科
- 31 矢野邸

第6回 2000年度

- 32 やつしろハーモニーホール
- 33 城南の舎
- 34 美里町福祉保健センター「湯の香苑」
- 35 ネクステージビル
- 36 熊本YMCA阿蘇キャンメインホール
- 37 セカンドサイト
- 38 霧の畜場

第7回 2001年度

- 39 荏原九州
- 40 K.Residence
- 41 つなぎ美術館
- 42 稗田の舎
- 43 ガレリアのある舎
- 44 chase
- 45 キューネット社員寮「希翔館」

第8回 2002年度

- 46 久野邸
- 47 立田山野外保育センター「雑草の森」
- 48 八代の町屋
- 49 いのうえデンタルクリニック
- 50 大野温泉センター

第9回 2003年度

- 51 熊本保健科学大学
- 52 I-HOUSE
- 53 熊本市現代美術館
- 54 UEDA.Residence

第10回 2004年度

- 55 九州新幹線 新水俣駅
- 56 S.W.H
- 57 田迎の家



熊本市内
中心部マップ

- 58 東海大学付属第二高等学校
- 59 ひだまりのまち B⁴
- 60 K-house in 近見
- 61 高瀬蔵
- 62 3 Towers
- 63 美里町立中央小学校校体育館
- 64 玉名温泉 つかさの湯
- 65 堀田眼科医院
- 66 阿蘇の舎
- 67 nina Dental Clinic
- 68 西の久保公園
- 69 "B"-studio
- 70 永田歯科
- 71 H-court
- 72 熊本学園大学14号館
(60周年記念会館)
- 73 城下町の住宅
- 74 多良木町交流館石倉
- 75 グリーン・ツィード アンド カンパニー
アジア エンジニアリングセンター
- 76 AI mall
- 77 コンパスポイント本社ビル
- 78 障害者多機能型施設 高森寮
- 79 B-house in 島崎
- 80 ジャングルジムの家
- 81 Chro-e#01 (クロイ-#01)
- 82 ガーデンコート ゆうかり
- 83 松木運輸株式会社
- 84 しらさぎおざや
- 85 済生会熊本病院 外来がん治療センター
- 86 barn renovation

- 87 畑の中の一軒家
- 88 川上酒店
- 89 i-CUBE #01 (アイキュー#01)
- 90 光の森の住宅
- 91 桜木の家
- 92 R-house in 梶尾
- 93 YMCA赤水保育園
- 94 熊本市下通2・3・4番街アーケード
- 95 道と暮らす家
- 96 天草文化交流館
- 97 C-HOUSE
- 98 芦北町立佐敷小学校
- 99 百年遺伝子の門
- 100 T-house in 高森
- 101 熊本市医師会館・看護専門学校
- 102 高瀬
- 103 宮原邸
- 104 嘉島の家
- 105 田園住宅(篠崎邸)
- 106 I-apartment
- 107 松の湯
- 108 矢野の家
- 109 Shipな家
- 110 行徳眼科
- 111 八代の家
- 112 護岸の家
- 113 器季家カフェ
- 114 阿蘇くまもと空港国内線ターミナルビル
- 115 小規模多機能型居宅介護ハイマートの郷
- 116 エウハウス
- 117 House - Sim
- 118 ±5' SEPPAN BOX

